

行政視察報告書

令和5年11月15日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 兼本 光治

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> ①愛知県大府市「ウェルネスバレー構想について」 大府市は、県内4番目の人口増加率で、2015年～2020年にかけて約4,000人4.4パーセント増加。いつでも住み続けたいサステナブル健康都市おおぶを理念とし、大府市は不交付団体である。 その一環として、ウェルネスバレー地区、健康交流ゾーンを農業推進施設6次産業施設、直売所、農家レストランを誘致し、健康交流ゾーンに20年以上の期間で農地を貸し借りする土地所有者と営農事業者に対し大府市農業推進施設等立地奨励金を交付。 健康長寿機関や関連施設の集積、産学官連携「エコシステム」「医福エクラスター」を形成2011年から事業が始まる。

現地視察の中で、ヘルスケア産業振興ブランド認定製品開発による医療施設へのトロミ自販機や飲料自動販売機にトロミ飲料品目を開発し、病院や老人ホーム等へ、患者のための推進事業を展開。

うるま市において、土地改良農振地域の耕作放棄地等における6次産業等の推進、老人福祉施設等の健康医療施設ゾーン事業の中で、大府市のウェルネスバレー地区健康交流ゾーンが参考にできないか。

②愛知県豊田市「とよたエコフルタウンについて」

低炭素社会モデル地区「とよたエコフルタウン」未来の暮らしや最新の環境技術の現地視察の中で、パビリオン。「とよた市の歴史持続可能な町づくり取り組み」・水素ステーション「燃料電池自動車施設の水素製造の過程」・車とつながる家「地元の木材を使い木のぬくもりと自然の恵みをいかした住宅」を現地説明、現地視察をする。

最近の燃料高騰の中、未来の自動車、超小型電気自動車、車イス等に低炭素水素エネルギーが未来の環境開発は近いと見ました。

うるま市単独事業では、事業予算が莫大となる。

③愛知県半田市「ソシオ成岩スポーツクラブについて」

過去から未来へ、チャレンジあふれるまち。5年に一度の山車が揃い踏み「はんだ山車まつりが50万人を超える見物客を魅了する。半田市の山車文化の魅力を全国に発信する。

半田市スポーツ推進計画は、1計画の概要、2基本計画、3基本理念、4施策の体系を理念に、基本施策5総合型地域スポーツクラブ活動の充実を図り、全国に先駆けて市内5つの中学校に総合型地域スポーツクラブが設立され、安定的な運営に移行しつつある現状から、主体性を持って、継続的、組織的、計画的に活動できる取り組みを実施している。

中でも、スポーツ関係団体等との連携、中学校部活動との連携、総合型地域スポーツクラブへの支援、啓発が運営人材育成をサポートする。

うるま市にも、数多くのスポーツクラブがある中、小学校のスポーツクラブや、中学校の部活動等地域人材の育成に半田市の総合型地域スポーツクラブを参考にできないかと考える。

行政視察報告書

令和5年11月8日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 高屋 優

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> 1. 大府市におけるウェルネスバレー構想について 大府市におけるウェルネスバレー構想は、市民の健康寿命延伸を目指す革新的な取り組みでした。市は「健康」に焦点を当て、まちづくりに積極的に取り組んでおり、その成果は印象的でした。エリア分けを通じて土地利用計画を展開し、医療福祉ゾーン、健康産業ゾーン、健康交流ゾーンというカテゴリーに分割していました。 健康をキーワードに据え、医療、介護、食に関連する6次産業、企業集積、レストランを呼び込むことも印象的で、地元の経済発展に貢献しています。さらに、行政は医療・福祉機関と大学、産学官連携、医福工連携の推進にも力を入れ、スタートアップ企業に対しても支援を提供しています。この緊密な連携と支援体制は、地域社会の健康への継続的な貢献を示しています。 うるま市においても行政窓口で、企業と市民を繋ぐサポートを積極的に努めるべきだと感じました。

2. 豊田市における低炭素社会モデル地区とよたエコフルタウンについて

豊田市の低炭素社会モデル地区とよたエコフルタウンにおいて、地球温暖化対策に向けた取り組みが確認されました。地球環境を保護し、未来の世代のために脱炭素と低炭素の必要性を認識し、実践している先進事例です。

視察では、電気自動車や、立ち乗りタイプの乗り物、スマートハウス、水素カー（MIRAI）といった革新的な技術と取り組みを紹介されました。これらの先進的な取り組みは、持続可能な未来への道筋を示し、地球環境保護が今後ますます重要になることを強調しました。

うるま市には石油関連企業が立地し県内外へ貢献しています。石油は私たちの生活に欠かせないものですが、地球環境保護の観点からも地域事業者や私たちの生活の中で脱炭素や低炭素化の取り組みは重要な事だと感じました。

3. 半田市における総合型地域スポーツクラブ「ソシオ成岩スポーツクラブ」について

「ソシオ成岩スポーツクラブ」は、地域社会における青少年と市民の健康促進、健全な育成、地域活性化に寄与している優れたモデル事例です。学校内にある体育館を、学生と地域住民が共同利用する仕組みが成功しています。

この施設は、メインの体育館に加え、サブアリーナ、市民向けの受付、更衣室、カフェテリア、テラス、お風呂（ジャグジー付き）、屋上（スカイアリーナ）を提供し、サッカーやテニスを楽しむ場所も整備されています。このような多様な施設と共同利用の仕組みは、地域社会の健康と活力の向上に貢献しており、他の地域でも模倣できる価値のある取り組みです。うるま市においても地域の発展と市民の健康福祉向上に向けた取り組みや施策について多くの示唆を得ることができました。

本視察を通じてうるま市の政策や様々なプロジェクト計画のさらなる向上に寄与してまいります。

行政視察報告書

令和5年11月15日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 大城 直

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	※写真など挿入可。
<p>① ウェルネスバレー構想について（愛知県大府市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国と県が連携し、2011年にウェルネスバレー推進協議会を設立し、あいち健康の森公園に隣接した健康長寿機関や関連施設等が集積した広大なエリアで、医療福祉ゾーン・健康交流ゾーン・健康産業ゾーンに区分された健康都市を形成している。 <p>【あいち健康の森公園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立長寿医療センター→全国に6機関設置の国立高度専門医療研究センター ・あいち小児保健医療総合センター→愛知県唯一の子供のための保健医療施設 ・あいち健康プラザ→愛知県民の健康づくりを総合的に推進する拠点施設 <p>【医療福祉ゾーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憩の郷（障がい者の就労支援）認知症介護研究研修センター、介護老人保健施設、介護付き老人ホームなどがあり、近年充実しているようです。 <p>【健康交流ゾーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAあいち知多のげんきの郷を中心に、観光農園、農産物加工所や直売所、農家レストランを展開し、地産地消を目指している。（平日でも約2,000人が訪れる） 	

【健康産業ゾーン】

- ・ヘルスケア産業振興（新産業創出に向けた取り組みエリアとした区域）
 - ・医福工連携マッチングエリアとしてヘルスケア商品の研究開発・実証区域として設定
 - ・現場の困りごと→アイデアボックス→企業で開発→商品化の流れを構築し、自動車関連企業と連携し、とろみ成分入り飲料の自動販売機を開発している。
- ※大府市役所での座学ととろみ成分の自販機で時間を有し、ウェルネスバレー地区の見学時間が思うようにとれなかった事が残念である。

② とよたエコフルタウンについて（愛知県豊田市）

- ・低炭素モデル地区「とよたエコフルタウン」を2012年に開設された施設見学
- ・エコな未来の暮らしや最新の環境技術を体験できる「豊かな暮らし」を目指す拠点として、とよたエコフルタウンを2012年5月に開設し、市民・地域・企業・大学・先進技術・自然、様々なものがつながり、それぞれの魅力を活かし合って豊かなまちをつくり、10年後50年後を見据えた新たな取り組み事例を体験できる施設として開設されている。→今年で40万人の来場を目指している。
- ・来場者は、市内、県内、県外、海外ともに4分の1配分である。
- ・2009年に全国23か所が選定された環境モデル都市に豊田市が選定され、「都市」と「山村」が共存し、様々な人、地域、企業、技術、その一つひとつの力をつなぎ「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」を重点的にSDGs達成に向けた取り組みを広げている。
- ・その他、水素自動車と水素ステーションの説明、車とつながる家（省エネ住宅）を見学し、その後に電気自動車の説明を受け、街なかでリースされている立ち乗り型の車を体験試乗させて頂く。

※低炭素社会に向けた取り組みの中でも、先進的などよたエコフルタウンではあるが、水素自動車については、残念ながら沖縄県には水素ステーションが無いいため、実用的でないが、電気自動車の実用化（公用車等）は近い将来検討が必要になると思われる。

③ ソシオ成岩スポーツクラブについて（愛知県半田市）

- ・半田市では、平成8年成岩中学校の体育館建て替えに伴い、様々な人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者（多世代）まで、様々なスポーツを愛好する人々（多種目）が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベル（多志向）に合わせて参加できる。という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブとして設立された。
- ・半田市では、全国に先駆けて、市内5つの中学校区に総合型地域スポーツクラブが設立され、総合型地域スポーツクラブでは様々な種目のスポーツや文化活動を楽しむことができるようになった。
- ・現在、成岩中学校以外はこの様な施設ではないが、学校施設開放の事業の一環で総合型地域スポーツ施設として今ある体育館等を活動拠点として、地域の方々に利用して頂いている。

※まるで、学校の体育館とスポーツジム、公民館が一体化した総合型地域スポーツ施設のようであり、PTA活動からPTCAとなり、地域との交流の場がより重要になると言われていますが、それをスポーツの分野で活かしているように感じ、共感できる

取り組みである。

行政視察報告書

令和5年11月15日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 喜屋武 力

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>
1. 愛知県大府市 ウェルネスバレー構想について	<p>① 大府市・東浦町が平成20年度に策定したウェルネスバレー基本計画</p> <p>健康、長寿に関する研究機関や施設（WV関係機関）が集積したあいち健康の森とその周辺地区をウェルネスバレーと名付け、中核とする地域でウェルネスバレー推進協議会を中心にWV関係機関や産業界、行政が連携、健康・医療・福祉・農業・食・新産業育成に先駆的な取り組みと積極的な情報発信に努め、健康長寿に係る企業などの誘致を進め、健康長寿の一大拠点を目指す。</p> <p>推進協議会は、認知症・フレイル予防・医療介護ロボット開発、生活習慣予防をテーマに大府市東浦町の共同でワンストップ窓口、ヘルスケア産業創出に向け実証事業を支援。</p> <p>主な構成団体 医療介護関係機関 ヘルスケア関係</p>

大学研究機関

げんきの郷 ウッド・ビレッジ 大府商工会議所 東浦町商工会
行政機関。大府市 東浦町

② 広大な土地を生かしたウェルネスバレーの土地利用計画

医療福祉ゾーン約3万坪、健康交流ゾーン約11万8千坪、健康産業ゾーン約36万9千7百坪、全体で約51万8千坪、うるま市の1/50に相当する面積でありその中にはあいち健康の森公園も含まれている。

*PRポイント

- ・アイデアボックスを活用し医福工連携マッチングとして（医療福祉現場から発出した課題（ニーズ）と市内外企業による試作開発）
- ・共同開発実証事業の取組（地区の介護施設等での実証希望者のサポート）
- ・国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター リビングラボ窓口（介護ロボットの開発、実証、普及支援）
- ・医療福祉ゾーン（周辺の研究機関施設と共同研究実証事業の展開でゾーン付加価値の高まる土地利用）
- ・健康産業ゾーン 健康長寿に関する先端技術産業、医療介護ロボットや福祉用分野の健康長寿産業の企業等を中心とし、企業立地を推進し産業土地利用を目指す。ウェルネスバレー地区内には健康長寿機関や関連施設の集積、高齢者に対する長寿医療研究センター、老人ホーム、JA直売所他大型施設が13カ所あり、いつまでも住み続けたい健康都市おおぶを理念としている。
アイデアボックスを活用し医福工連携した医療福祉関係機関と企業の試作品新商品開発を実現、市内外企業も参加。
スタートアップと連携した地域活性化の取り組み開催、自動調理販売機、とろみ自動調理機の実証。
- ・農業推進施設等の誘致に向けた奨励金制度。10アール当たり20年間の賃借総額50万円算出。JAあぐりタウンげんきの郷で直売、色々なイベントを通し開催、年間200万人が訪れる。

2. 愛知県豊田市 とよたエコフルタウン

低炭素化社会モデル地区、市民、地域、企業、大学先進技術、自然、様々なものがつながり10年後50年後を見据えた新たな取り組み事例を体験できる施設 エネルギー、モビリティ、ウェルネスを重点的にSDGs達成未来に向けた環境にやさしい取り組み燃料電池自動車FCV【MIRAI】約30分の水素製造貯蔵が可能 豊田市の公用MIRAIやおいでんバス運行している。

燃料電池、水素充填や家庭で使用するエネルギーを創る、蓄える、節約する環境面・コスト面で無駄なく快適なエコライフの提案。

簡単に野菜が栽培できる植物工場ユニット、食べられる壁面緑化都市型農業と緑化に関する製品展示紹介。

パーソナルモビリティでは、一人乗り移動機器の乗車体験。未来の乗り物としてエコを考える時代に必要とされる。

3. 半田市ソシオ成岩スポーツクラブ視察

人々が身近な地域でスポーツに親しむ事の出来る新しいタイプのスポーツクラブ、子供から高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまでレベルに合わせた参加型クラブ、自主的主体的運営型スポーツクラブを全国に先駆け市内5中学校区に総合型地域スポーツクラブの設立。

スポーツを通じて子供や市民への指導や、育成の出会いを演出する重要な役割のボランティア指導員の研修会の提供と、指導者としての向上心を喚起する取り組み。

指導者以外にも医療面、健康面で活動を幅広く支える各種ボランティアを掘り起こし安定した総合型地域スポーツクラブ運営に力を入れ、発展に支援。

クラブマネージャー、トップアスリートを目指す青少年に対応できる指導者人材の養成育成に取り組み、上級資格取得のための奨励や積極的な自己研の為、社会体育施設使用時の使用料の減免、総合型スポーツクラブとともに老人クラブ連合会、各種健康づくり団体と連携、各種のボランティアの発掘や相互交流の推進、地元大学生を中学校部活動の指導者に迎え共同事業の実施体制に取り組んでいる。

学校体育施設の地域共同利用、スポーツクラブの活動拠点に位置付け、文化活動等幅広く活動を行う為必要に応じ空き教室の活用、中学校体育館に併設し学校体育施設を開放し管理・指定管理し、平日の未使用時間帯を活動場所として効率的に活用する。

中高年者地域住民が気軽に継続的に参加し、健康体操や運動プログラムの提供スポーツ以外の文化活動等、幅広い活動を新たに展開し加入層の拡大を図っている。

学校の働き方改革を踏まえ部活動改革として休日の学校活動はスポーツクラブ活動へ移行。地域指導者の確保は重要な課題で安定した中学生のスポーツ文化活動のための体力維持向上の為、地元の大学生を迎え入れ行政、学校、地域、大学が連携し、子供地域の人々との交流を推進し活動の出来る環境作りに取り組んでいる。

誰もが身近に気軽に活動ができる環境地域間で差が出ないように、総合型地域スポーツクラブの運営人材の育成をサポートする。

行政視察報告書

令和5年11月15日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 玉城 政哉

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> 今回の行政視察では、これから次世代に対する地域の居場所づくりや自然環境を考えさせられる視察であった。 1. 愛知県大府市（ウェルネスバレー構想について） 愛知県大府市では、ウェルネスバレー地区、健康交流ゾーンの説明を聞き施設現場まで足を運び見学を行った。 ウェルネスバレーとは、健康・長寿に関する研究機関や施設が集積した、あいち健康の森とその周辺地区をウェルネスバレーと名付け平成20年度に基本計画を策定し、このエリアは国立長寿医療研究センターやあいち健康プラザをはじめ、健康・医療・福祉に関する機関・施設が多数立地しており、健康長寿分野においても全国で有数の集積地となっている。 大府市と東浦町ではウェルネスバレー地区において健康長寿の一大拠点を形成していくことを目指しているとのこと。 また、このウェルネスバレー地区には11箇所の施設が拡大な面積に配置され、愛知

健康の森葉草園、げんきの郷（JAあいち知多）憩の郷、認知症介護研究・研修大府センター、ルミナス大府（介護老人保健施設）、フラワーサーチ大府（介護付有料老人ホーム）、さわやかなの丘（住宅型有料老人ホーム）、愛厚ホーム大府（特別養護老人ホーム）と施設が揃い、中にはヘリポートも整備され重篤な救急患者の受け入れ体制を整えています。

こういう健康・長寿に関する研究機関や施設の集積を生かした連帯サポートができ、また、これからの長寿時代に立ち向かう私達もこういう立地環境が必要になってくるのではと考える。また、長寿・健康・医療サポートのできる安心・安全なまちづくりに取り組めて行けたらと思う。

2. 愛知県豊田市（とよたエコフルタウンについて）

愛知県豊田市では、つながる社会を目指し地域課題の解決につながる先進技術の実証が行われていました。

豊田市ではこれからの持続可能な都市づくりに向けて、先進技術の開発や実証展開する母体として豊田市つながる社会実証推進協議会を組織にし、ここでは民・産・金・学・官の連帯強化を図りながらAI、IOTを積極的に活用し豊田市が直面する課題を効率よく解決できる社会システムの構築と新たなスマートシティの実現に尽力していた。

みんながつながる、世界につながる、ミライにつながるスマートシティの目的は市民生活の安全・安心の向上と、新産業の創出と産業の多角化、先進実証都市としての魅力向上を図り、豊田市および国内外の持続可能な社会形成に貢献することである。

解決すべき市の課題と協議会としての目標は2050年までにCO2 50%削減、2050年までに平均寿命＝健康長寿、2050年までに交通事故死者数0人を目標にしている。

資源、エネルギーの地産地消では太陽光や水力、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入率が高い地域です。一方で、ものづくりやクルマのまちゆえ、産業分野や交通分野からのCO2排出量が多いという課題があります。そこで豊かな再生可能エネルギー資源をベースとし、水素などの新しいエネルギーや次世代自動車、蓄電池など、さまざまな技術をつなぎ、地域のエネルギーを地域で有効活用できる仕組みづくりに挑戦している。

今回、豊田市では様々な形で取り組みを実施しており私達も沖縄の自然環境を生かし地産地消を取り入れながらの太陽光、水力、風力、バイオマスを利用した地域でできる地域に合わせた環境に適したエネルギー開発ができないか検討していきたい。

3. 愛知県半田市（ソシオ成岩スポーツクラブについて）

半田市では1995年に成岩地区少年を守る会が成岩スポーツタウン構想を提唱した。1996年に学校と地域が連携し小中学校のスポーツ活動を総合的に支えるクラブを設立した。

スポーツクラブを法人化し学校教育現場の体育館を地域の方が利用し放課後の部活動なども地域移行を目指し取り組んでいる。中学生の生活改革をもたらす新しい放課後という選択技の提供も取り入れている。

私達地域でも教育現場を地域の皆さんに利用させて地域との交流・地域との結びつけを地域と学校と子どもたちとの交流の場へできたらよいのではないかと思います。

また、学校の部活動から街のブカツへ移行することにより子どもたちと地域の絆も生まれてくると感じた。

「地域の子どもたちを地域ぐるみで育てる」を目標に今後繋げていけたらと思いました。

行政視察報告書

令和5年11月13日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 天願 浩也

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> ① 愛知県大府市 ・ウェルネスバレー構想について 国立長寿医療研究センターを中心に健康長寿機関や関連施設が集積されている。 また、ウェルネスバレー推進協議会が設立されており、「健康長寿機関・施設」、「産業界」、「行政機関」3者で構成されている。その中で大府市は協議会の費用に対し年間70～100万円の予算を組んでいる。 ウェルネスバレー推進協議会が目指していることとしては、「ここで子育てをしたい」「ここで暮らしたい」と思える、幸せの漢字を使った「幸齢社会」の実現を目指し協議をしている。協議会のこれまでの取り組みとして医療・福祉・工業の連携とマッチングやアイデアボックスの活動を行っている。企業や市民から集積したアイデアボックスに医福工連携マッチングを活用し新たな製品開発に役立っている。その中で生まれた製品が「とろみ自動調理機」などが挙げられる。人手不足の介護施設で食事の際にとろみをつけた飲み物を提供するためには、人手と時間を要していたが、この自販機を開

発したことで大きく問題解決につながった。

こうした民間企業の発展も可能にした構想になっているが、大部分が企業と国の力があってこそ、このウェルネスバレー構想が成り立っているのではないかと感じた。実際に大府市は協議会の費用を年間100万円の予算しか計上されていない。もし、うるま市で可能にするためには、お隣の恩納村にあるOIST（沖縄科学技術大学院大学）と企業との連携が不可欠だと感じた。

② 愛知県豊田市

・豊田エコフルタウン

環境モデル都市として2009年に国から認定を受け、2018年にSDGs未来都市に選定された。2019年にはとよたエコフルタウンをリニューアルし、環境だけにとどまらず、持続可能な社会の実現に向けて未来につながる社会づくりを目指している。

施設内には水素ステーションが設置されており、水素燃料で走行する車両の補給も行っている。そこでは水素燃料について学びましたが、水素を作る際には多くの電力やプロパンガスが必要であることを伺い、電気自動車も燃料電池自動車「MIRAI」表向きは環境にいいように思うが、燃料を作る工程では多くのCO₂を排出していることがわかりました。日本全体のCO₂削減には大元となる発電所から脱炭素を行わないと難しいのではないかと感じた。また、沖縄では火力発電が主流のため、今後の電気需要を賄うために今の発電力で賄えるのか疑問が残った。

③ 愛知県半田市

・ソシオ成岩スポーツクラブ

ソシオ成岩スポーツクラブは学校体育施設を民間に委託管理をした官民連携事業になります。

平成7年に文部省指定の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」として認定され、翌年から事業がスタート。補助額は合計2,700万円の補助を国から受けている。平成10年度から他の地域にも広めるため、半田市の予算で1,140万円が他4地域にも補助を行っている。

従来の学校の部活動から「街のブカツ」へ、地域の子供達を地域で育てるコミュニティスクール・スポーツがコンセプト。

年間の財政規模は9,000万円で協賛会費が2,000万円で事業収入が6,000万円。会員数は3,000人前後、内小中学生が35%を占めている。協賛会員は地域住民の14%にも上り、日本のフィットネス参入率の5倍にもなる。

また、指導者ボランティアのほか、アスリートのセカンドキャリアで指導を行っている職員もおられ、高い指導力を提供することも可能となっている。

課題としては、人材確保に苦戦しているとのことでした。

うるま市においても学校部活動の地域移行が進められている中、施設の管理や高い指導力の提供に悩ませれており、年間1,000万円の予算をスポーツデータバンクに支払い指導者の確保に努められている。今後、持続的に行うには、外部に委託して指導者を確保するよりは地域の方々と連携した取り組みが必要ではないかと感じました。

行政視察報告書

令和5年11月8日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 仲程 孝

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和5年10月30日（月）～令和5年11月1日（水）
3. 視 察 先	①愛知県大府市 ②愛知県豊田市 ③愛知県半田市
4. 調査内容	①ウェルネスバレー構想について ②とよたエコフルタウンについて ③ソシオ成岩スポーツクラブについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 大城 直、喜屋武 力、玉城 政哉 天願 浩也、仲程 孝 事務局 長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①大府市議会事務局職員、商工業ウェルネスバレー推進課職員 ②豊田市議会局職員、未来都市推進課職員、とよたエコフルタウン職員 ③半田市議会事務局職員、スポーツ課職員、ソシオ成岩スポーツクラブ
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> ①大府市「ウェルネスバレー構想について」 「医福工連携」初めて耳にする言葉に驚きつつも、まさしく医療や介護の現場からの声を工業（産業）に活かす画期的なマッチングだとの印象を持ち、商品開発などが現場の声を活かされていることは、ある程度その地域に製造業（工業）が根付いているものであり、1つの病院と6つの介護施設に設置されている「アイデアボックス」なるものは、まさにそのことを象徴している施策であると感じた。 また、ウェルネスバレー構想そのものが、隣接する東浦町、愛知県、国をも巻き込んだ、非常に大きなプロジェクトであり、大府を健康長寿の一大拠点にしようと試みた先人たちの先見の明に感心するばかりである。 現地視察ではとろみ付き飲料の自動販売機などを製造・販売する株式会社アペックスさんにお邪魔し、説明を受け医療現場での必要性を強く感じた。 先ほど述べたようにウェルネスバレー構想そのものが非常に壮大でありながら、大府市の担当職員からは我々委員会に特化した経済産業部門での事業説明を中心にして

頂いたことに感謝したい。

いずれにせよ、市当局全てにおける組織横断的な取組は全国の自治体における課題として、考えさせられる事業である。

②豊田市「とよたエコフルタウンについて」

豊田市駅から車で5分程度の（とよたエコフルタウン）を訪ねた。SDGs未来都市に指定されている豊田市においては地球環境や脱炭素社会に向けた取り組みが、うるま市とは段違いの印象をまずは受けた。

パビリオンにおける、さわれる地球儀やマッピングビジョンは的確に視覚に訴え、子どもたちへの教材として秀逸である。

また、車とつながる家では家庭で使用するエネルギーを一括管理、エネルギーを創る・蓄える・節約するという3つの視点は今後の地球規模的なスタンダードになりえる試みとして、非常に興味深い内容であった。

最後に電気モビリティの1つである立ち乗りタイプに試乗させて頂いたが、想像以上に力があり、座り乗りタイプと併せて、今後は医療や福祉の現場でも利活用できるのではとの思いである。

③半田市「ソシオ成岩スポーツクラブについて」

現在うるま市では学校部活動の地域移行について、全国的にも先進地であり注目されているが、スポーツクラブがその受け皿となりえる体制になく、受け入れる側の学校がその役割を担う形式となっている。

しかし、半田市では5つの中学校区すべてにスポーツクラブが設置されており、うるま市とは逆に図らずも受け皿から整備しているような印象である。

特に成岩中学校区では「地域の子どもは地域で育てる」という気概のもと、創設に関わった榊原氏の情熱を伺う事のできた非常に有意義な時間となった。

また、これまで地域ボランティア育成に心労したとのことであったが、現在も年4回の研修を行うなど精力的に活動されているとの印象である。

成岩中学校敷地内に存在するスポーツクラブ（体育館）は平成15年に完成し、学校敷地にありながら、地域から学校が借用する形式となっており、これまでに私が想像することもできない事業展開は今後も注視していきたい内容であった。

以上、3日間にわたる行政視察に関する所見と致します。今視察が円滑に行えたのも、事務局職員の綿密な計画のおかげであり、この場を借りて感謝申し上げます。